

## 2020年度（対象年度：2019）自己点検・評価シート

|      |           |     |
|------|-----------|-----|
| 基準 4 | 教育課程・学習成果 | 1/2 |
|------|-----------|-----|

## I. 自己点検・評価

## 1 自己点検・評価結果 &lt; 評定 &gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

| 項目<br>No. | 評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当>  | 自己評価 |    |
|-----------|--|------|----|
|           | 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>   | 現状   | 改善 |
| 401       | 授与する学位ごとに、卒業認定・学位授与の方針(※)を定め、公表しているか。<br>(※研究科は、学位授与の方針)   | B    |    |
|           | ①課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した卒業認定・学位授与(※)の方針の適切な設定及び公表<br>(※研究科は、学位授与の方針)  |      |    |
| 402       | 授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針を定め、公表しているか。   | B    |    |
|           | ①下記内容を備えた教育課程編成・実施の方針の設定及び公表<br>・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等<br>②教育課程編成・実施の方針と卒業認定・学位授与(※)の方針との適切な関連性<br>(※研究科は、学位授与の方針)   |      |    |
| 403       | 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。   | B    | B  |
|           | ①各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置<br>・教育課程編成 ・実施の方針と教育課程の整合性<br>・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定<br>・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等)<br>・各学位課程にふさわしい教育内容の設定<br>＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等<br>＜修士課程、博士課程＞コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等<br>②学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施                         |      |    |
| 404       | 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。   | B    |    |
|           | ①各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置<br>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置<br>(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)<br>・シラバスの内容(講義概要、到達目標、講義方法、授業時間外における予・復習の指示、成績評価の方法、講義計画等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)<br>・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法<br>＜学士課程＞授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施<br>＜修士課程、博士課程＞研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施 |      |    |

## 2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

401①402①②学位授与の方針 (DP)、教育課程の編成・実施方針 (CP) については、毎年、学部・研究科等において、年度初めの教授会等で確認がなされ、適切性が確認されている。[401a] また、「3つの方針一体的見直し作業部会」において全学的な見直し作業を進め、2019年度入学生より新たな DP と CP を適用することとなった。(2018年度第6回全学教学政策会議<2019.1.24>報告) [101d]。DP、CPについては、HPにて広く公表されており、履修要項にも明示している。加えて、2019年度は、これらの DP 及び CP との整合が取れるよう、AP の見直しを実施している。

403①②CP と教育課程との整合性については、毎年、教学部から各学部・研究科宛に学則の変更に係る確認依頼を行っており、それにあわせて各学部・研究科にて確認がなされ、必要に応じて変更がなされている。[403a] 単位の設定については、大学設置基準に基づき、各学部・研究科において科目修得のために必要な授業時間数を履修要項に明示し実施しており、単位制度の趣旨に沿ったものとなっている。[403b]

また、全学共有コードの策定に向けた情報収集やFD開催による理解促進を重ねた結果として、「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」を策定した(第7回学修支援・教育開発センター会議及び第5回全学教学政策会議<2020.3.19開催>)。[403c]

学士課程においては、「教養教育カリキュラムマップ」を策定し、教養教育と専門教育の配置等にかかる概要を示すとともに、各学部の履修要項に順次掲載していくことを計画している。[403d] また、教学会議において、各学部による入学準備サポートプログラムの総括結果及び成果を共有することで、初年次教育をはじめとした教育内容の設定等について確認を行っている(2019年度第4回教学会議<2019.7.19>) [403e]

大学院の各学位課程にふさわしい教育内容の設定となっているかについて、大学院教学会議において、前年度の活動状況や当該年度の重点政策を確認しており、各研究科の教育内容を把握するとともに、意見交換を行い、その適切性を確認している(2019年度第2回大学院教学会議<2019.5.28>) [403f]

404①単位制度の趣旨を考慮した単位の実質化を図るための措置として、学生が受講登録できる単位数に対して上限設定[404a]を行っている。授業時間外における学生の学修を促進するために、シラバスにおいて「授業時間外における予・復習等の指示」欄[404b]を設けている。また、シラバスの記載内容として、「講義概要」、「到達目標」、「講義方法」、「成績評価の方法」があり[404b]、アウトカムズベースのシラバスとなっている。受講生が多くなる傾向にある教養教育科目においては、次年度の受講登録学生数を予測してクラス数を決定[404c]し、受講登録学生数が確定した段階で、クラス分割が必要な授業に関しては、クラス数を増やす等の措置を講じている。

研究科の研究指導計画については、すべての研究科において研究指導計画を作成し、研究指導の方法及び内容や年間スケジュールなどを、履修要項や演習のシラバス上において、学生に対して明示している[404d]。

|  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの |                                     |
| 項目 No.                                 |                                     |
| 項目 No.                                 |                                     |
| 課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点              |                                     |
| 401,402                                | 学部・研究科の教育理念・目的と3つの方針の連関性、および整合性の検証。 |
| 項目 No.                                 |                                     |

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等)への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <伸長・改善の進捗状況>

|  |  |
|--|--|
| 対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない  |  |
| 「3つの方針一体的見直し作業部会」において全学的な見直し作業を進め(計5回開催)、2019年度入学生より新たな DP と CP を適用することとなった。(2018年度第6回全学教学政策会議<2019.1.24>報告) [101d]。加えて、2019年度は、これらの DP 及び CP との整合が取れるよう、AP の見直しを実施している。 |  |
| また、全学共有コードの策定に向けた情報収集やFD開催による理解促進を重ねた結果として、「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」を策定した<第7回学修支援・教育開発センター会議及び第5回全学教学政策会議(2020.3.19開催)承認>。[403c]   |  |
| その他、学士課程においては、「教養教育カリキュラムマップ」を策定し、教養教育と専門教育の配置等にかかる  |  |

概要を示すとともに、各学部の履修要項に順次掲載していくことを計画している。[403d]

<今年度の伸長・改善計画>

| 項目 No.  | 課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）                        |
|---------|--|
| 401,402 | 「3つの方針検証委員会」において、全学的な共通の枠組みのもとに継続的に見直し作業を行う。 |
|         |  |

4 根拠資料

| 項目 No. | 根拠記号 | 根拠資料の名称  |
|--------|------|--|
| 401    | a    | 各学部・大学院における「教育理念・目的」・「学位授与の方針」・「教育課程編成・実施の方針」の変更にかかる報告について（依頼） |
| 403    | a    | 学則変更（案）の報告について（依頼）   |
| 403    | b    | 2019年度各学部履修要項（根拠資料 102b 参照）                                    |
| 403    | b    | 2019年度各研究科履修要項（根拠資料 102c 参照）                                   |
| 403    | c    | 全学的なナンバリングコードの策定について（提案）                                       |
| 403    | d    | 教養教育カリキュラムマップ  |
| 403    | e    | 2019年度第4回教学会議 資料   |
| 403    | f    | 2019年度第2回大学院教学会議 資料  |
| 404    | a    | 履修登録制限単位数  |
| 404    | b    | シラバス作成の手引き   |
| 404    | c    | 2019年度第7回教養教育会議 議事録(抜粋)  |
| 404    | d    | 研究科研究指導計画書   |

## II. 評価結果

|   |
|---|
| <p>総評</p> <p>学位授与の方針 (DP) 【2019 年度以降入学生 (学部)】では、学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を定め、WEB 等に公表している。教育課程の編成・実施方針 (CP) 【2019 年度以降入学生 (学部)】も、DP に明示した学生に保証する基本的な資質・能力を修得するための体系的・系統的な教育課程を編成することを定め、WEB 等に公表している。また、学部・研究科等は、毎年度当初、教授会等で DP,CP の変更の有無を含め確認を行っている。2019 年度は、DP 及び CP との整合が取れる AP の見直しを実施した。</p> <p>2019 年度は、学部の教育課程の編成に関する取り組みとして、教育課程の順次性・体系性を明示するため「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」を策定した。また教養教育と専門教育の配置等にかかる概要を示す「教養教育カリキュラムマップ」を策定し、各学部の履修要項に掲載することを計画している。各学部による入学準備サポートプログラムの総括結果及び成果を教学会議で共有し、初年次教育をはじめとした教育内容の設定等について確認を行った。</p> <p>研究科の教育課程の編成に関する取り組みとして、大学院教学会議において、前年度の教学展開上の活動状況や当該年度の教学展開上の重点政策を確認し、各研究科の教育内容を把握するとともに意見交換を行い、その適切性を確認している。</p> <p>履修登録単位数の上限設定、シラバスの記載内容 (講義概要、到達目標、講義方法、授業時間外における予・復習の指示、成績評価の方法、講義計画等の明示)、研究科における研究指導計画 (研究指導の方法及び内容や年間スケジュール) の作成などは、適切に行われている。</p> <p>1 クラス当りの受講生数についても、受講生が多くなる傾向がある教養教育科目は、受講登録学生数を予測してクラス数を決定し、受講登録学生数が確定した段階で、クラス分割が必要な授業に関しては、クラス数を増やす等の適切な措置を講じている。</p> |
| <p>長所・特色《箇条書き》</p> <p>教育課程の順次性・体系性を明示する「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」を策定した。大学院教学会議において、教学展開上の活動状況や教学展開上の重点政策を確認していること、今後も継続し、各研究科の改善サイクルとして活用することが期待される。</p>   |
| <p>課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載</p> <p>改善報告書の記載どおり、「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」の策定内容を踏まえ、引き続き各学部との検討を図り、その成果・進捗について報告することが求められる。【努力課題】。</p> <p>計画どおり「教養教育カリキュラムマップ」を各学部の履修要項に掲載することが望まれる。【留意点】</p>  |

## 2020 年度（対象年度：2019） 自己点検・評価シート

## 基準 4 教育課程・学習成果

## I. 自己点検・評価

## 1 自己点検・評価結果 &lt; 評定 &gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

| 項目<br>No. | 評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当>   | 自己評価 |    |
|-----------|---|------|----|
|           | 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>  | 現状   | 改善 |
| 404       | 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。<br>①教育改革・教育改善の推進<br>・龍谷 IP、龍谷 GP | B    | B  |

## 2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

|  |  |
|--|--|
| 現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。   |  |
| <p>教学課題の解決や国の高等教育政策・補助事業の動向等を踏まえた全学的な取り組みや複数学部による横断的な取組、各学部における教育改革に向けた意欲的な取組で全学的な効果が期待できる取組に対して、スタートアップ経費として一定の期間重点的に財政支援を行うために、龍谷 GP 事業[404a]を実施している。2019 年度第 2 回 GP 推進委員会(2019 年 7 月 4 日開催)[404b]において、2016 年度龍谷 GP 採択事業[404c]に対する事業評価案について審議し確定した後、部局長会で報告することを決定した。</p> <p>龍谷 GP 事業の後継事業として、大学改革及び教育改革に資する取組を支援することを目的として、龍谷 IP ( Inventive Program )事業[404d]を設けている。また、龍谷 IP は、事業経費を一定期間支援し、支援期間中に優れた教育効果をあげた取組について事業継続を支援することとしている。2019(令和元)年度第 5 回採択型教学充実推進委員会(2019 年 9 月 19 日開催)[404e]において、龍谷 IP 事業に係る採択候補の選定を行った。</p> <p>また、2019 年度第 2 回採択型教学充実推進委員会(2019 年 5 月 30 日開催)[404f]において、2016 年度・2017 年度龍谷 IP 採択取組の事業評価案について審議し、確定した後、部局長会で報告することを決定した。</p> |  |
| 長所・特色《箇条書き》  | *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの                     |
| 404  | 龍谷 IP 事業の総括と今後のあり方を上申としてとりまとめ、部局長会に報告した[404g]。 |
| 課題事項《箇条書き》   | *伸長すべき点、改善すべき点                                 |
| 404  | 特になし。  |

## 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み \*成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

前例の無い新たな教育プログラムの探索や、構想段階にあつて組織的な体制構築に時間がかかるような挑戦的な取組を支援するため、龍谷 IP【萌芽型】を創設し、募集を開始した[404h]。

#### <今年度の伸長・改善計画>

| 項目 No. | 課題事項と伸長・改善方策 (到達目標を含む) |
|--------|------------------------|
| 404    | 特になし。                  |
|        |                        |

#### 4 根拠資料

| 項目 No. | 根拠記号 | 根拠資料の名称  |
|--------|------|--|
| 404    | a    | 龍谷 GP 実施要項(2015.03.25 改正)                          |
| 404    | b    | 2019 年度第 2 回 GP 推進委員会議事録                           |
| 404    | c    | 2016 年度龍谷 GP 採択事業に係る事業評価(事後評価)結果一覧                 |
| 404    | d    | 龍谷 IP 実施要項   |
| 404    | e    | 2019 年度第 5 回採択型教学充実推進委員会議事録                        |
| 404    | f    | 2019 年度第 2 回採択型教学充実推進委員会議事録                        |
| 404    | g    | 第 5 次長期計画 2 中アクションプランにおける龍谷 IP の総括ならびに今後の方向性について   |
| 404    | h    | 2021 年度 龍谷 IP(Ryukoku Inventive Program) 募集要項【萌芽型】 |

## II. 評価結果

|   |
|---|
| 総評  |
| <p>大学改革及び教育改革に資する取組を支援することを目的とした「龍谷 IP ( Inventive Program ) 事業」を実施していることは、学生の学習を活性化し、効果的な教育を行うための支援策と評価できる。2019 年度は、新たに龍谷 IP 事業 3 件が採択されている。</p> <p>採択型教学充実推進委員会における「第 5 次長期計画 2 中アクションプランにおける龍谷 IP の総括ならびに今後の方向性について (上申)」は、自己点検・評価活動そのものであり、顕在化した課題及び改善事項について、今後、上申どおり取り組むことが期待される。</p> <p>龍谷 IP 事業の予算執行 (毎年度) については、未だ低い状態 (5 割程度) が続いている。予算財源の在り方については、上申書にも課題として上げられているが、今後、経常化される取組 (IP 事業) の予算財源の措置ともあわせて、龍谷 IP 事業の適切な予算規模を検討することが望まれる。</p> <p>総括を踏まえ、龍谷 IP (Ryukoku Inventive Program) 【萌芽型】を創設したことは、新たな教育プログラムの開発支援につながるものと高く評価できる。</p> |
| 長所・特色《箇条書き》   |
| <p>龍谷 IP (Ryukoku Inventive Program) 【萌芽型】を創設したことは、新たな教育プログラムの開発支援につながるものと高く評価できる。</p>  |
| 課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載   |
| <p>2021 年度からの経常化を目指す取組 (IP 事業) に対し、予算措置が間に合うよう予算財源の在り方を検討し決定することが望まれる【留意点】。</p> <p>また龍谷 IP 事業についても、その適切な予算規模を検討することが望まれる【留意点】。</p>  |